

がんばろう!

東松島市

復興支援ボランティア（第1期）報告

今回の「復興支援ボランティア」は、八王子市と社会福祉協議会が企画し、市民と協働して被災地支援を行う取り組みです。GW後のボランティア減少傾向に対応するため、急きょ八王子市と社会福祉協議会のホームページ上で募集し、多くの方の申込みをいただき、実現することができました。

今期の市民ボランティアは、18歳から64歳までの男女20名で、7月8日（金）午後9時30分から八王子市役所ロビーにて、壮行会が行われたのち、活動場所である宮城県東松島市へ向けて借上げバスで出発しました。





首都高速から東北道へと順調にバスは走行し、途中のパーキングエリアで時間調整後、翌午前8時30分に東松島市災害ボランティアセンターに到着しました。当地は、梅雨とは思えないほどの晴天で、気温も既に30度はあろうかと…。これから予定されている活動は屋外での清掃支援。車中泊で寝不足の市民ボランティアの皆さんの体調が気になるころでした。

東松島市災害ボランティアセンターの指示により、地域の側溝清掃を託され現地へ徒歩で向かうさなか、地元の区長さんに呼び止められ、「八王子さん、どちら?」「公園の向こうの一区画です」「申し訳ないけど、こっちをやってくれないか」と別の場所が指示され、急きょ活動場所を変更する事態に。地元の方々も一緒に清掃活動をしているので、そのペースや場所の配分に合わせた活動となりました。

スコップで泥をかき出す人、土のう袋を広げ受ける人と2名一組になり、作業を始めました。



30cmから40cmはあろう堆積物、表面は土、2層目に黒々としたヘドロがあり、3層目は流れてきた海砂であろうと見受けられました。堆積物は重く、活動は体力勝負そのものです。太陽の熱は、否応なく頭・背中を照りつけ体力は時間とともに消耗する状況でした。



熱中症対策で休憩を多めに入れ、水分と塩分補給を繰り返しながら、昼食をはさみ午後3時頃まで活動しました。途中、地元の方々から、冷たい麦茶やお菓子の差し入れ、また、「ボランティアさん、ありがとうございます!」「こんにちは、ありがとう」と多くの方々、小さなお子さんからも声をかけていただき、それをエネルギーに20名の市民ボランティアさんは頑張りました。

翌日は場所を変えて朝9時より活動開始。昨日の疲れもなんのその。10時前に休憩し、さあ、もう一息頑張ろう!とした矢先、大きな揺れが長く続き、3月11日を彷彿する地震が発生しました。その後、すぐに津波注意報が市内の防災無線を通じて流され、作業を中止にしたままボランティアセンターへ避難することとなりました。

地元の方は落ち着いた様子でしたが、いくぶん車の交通量が増え、一様に海から離れてい

く印象を受けました。

津波注意報は地震発生よりおよそ 1 時間 30 分後に解除となりました。最終日の活動は帰路も考慮し午前中で終了しようとして計画していましたが、午後の活動は一緒に行っていた他のグループへお願いし、私たち市民ボランティアは東松島市を後にしました。

帰りの東北道は事故渋滞もあり、八王子着が午後 10 時 30 分になりましたが、市民ボランティアの皆さんは無事各ご家庭へと帰られました。

今回参加したボランティアさんの多くは、被災地での活動が初めてであり、当初はやや緊張した面持ちでしたが、現地の町の様子を自分自身の目で見、地域の方々と一緒に体を動かしたことで、被災地の現実を受けとめ、今後自分自身ができる支援について考えていただけたのではないかと思います。

アンケートの結果も、「今後も機会があれば、活動を希望されますか」の問いに、参加者全員が「はい」と回答されたことは、企画実施した八王子市と私ども社会福祉協議会にとっても、喜ばしく、復興支援への強い想いを感じました。

3 月 11 日に発生した地震と津波による被害は、東北地方の太平洋側沿岸部に甚大な被害をもたらし、震災後 4 カ月を経過した今もなお、多くの方々が困難に直面した生活を送っています。困難な生活を余儀なくされている方々に寄り添う活動とともに、八王子からも多くの支援と「頑張ろう！東北」のメッセージを発信し続けましょう。

八王子市と社会福祉協議会では、現地のニーズに基づき、必要に応じて、このような活動を継続的に行っていきたいと考えております。

文責：大島和彦（八王子市ボランティアセンター主査）